



# Pro Serviceチームの身近な AI活用事例

JaSST'25 Hokkaido LT

Autify 村穂 紀成



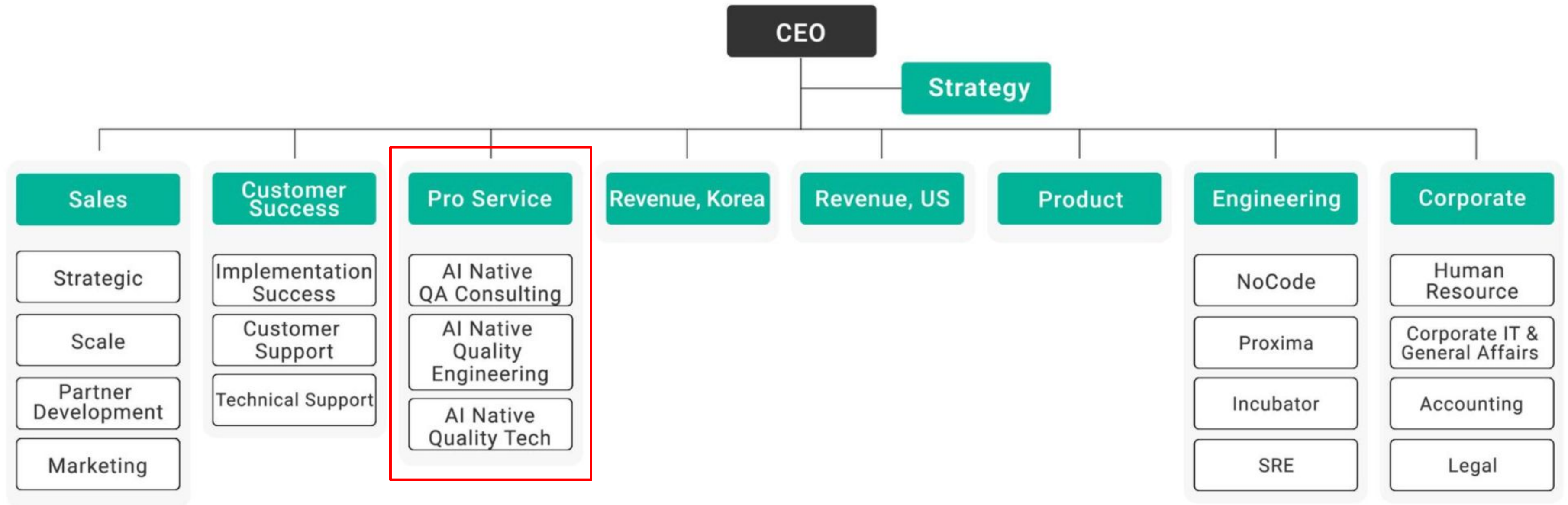
## Kazunari Muraho

今年の4月に Autify のPro Service teamに Join

今日初めて北海道にきました。最高。

## Pro Serviceチームについて簡単にご説明

# 組織図



- ブラウザ拡張機能を開発し Autify のプロダクトをより使いやすくする
- 仕様書からデシジョンテーブルを作成
- AI が作ったテストケースと人間が作ったテストケースの類似度を調べる

- ブラウザ拡張機能を開発し Autify のプロダクトをより使いやすくする
- 仕様書からデシジョンテーブルを作成
- AI が作ったテストケースと人間が作ったテストケースの類似度を調べる

**Dify でワークフローを作って対応**

- ブラウザ拡張機能を開発し Autify のプロダクトをより使いやすくする
- 仕様書からデシジョンテーブルを作成                      ChatGPTなどを活用して対応
- AI が作ったテストケースと人間が作ったテストケースの類似度を調べる

- NoCode Mobile で失敗したシナリオを調べやすくする拡張機能
- NoCode Web 用のセレクター抽出や JSコードを作成してくれる拡張機能



# NoCode Mobile で失敗したシナリオを調べやすくなる拡張機能

Untitled test plan 1

mobile-app.autify.com/projects/25kFX6/results/d3tR7Q

branch: main commit: b4a1f44 Admin storybook Logs

⚠ You are seeing Autify new hires workspace

**Autify**

テスト

- ビルド
- シナリオ
- ステップグループ
- テストプラン
- テスト結果**

環境変数

ヘルプ

- ユーザーガイド

アカウント

- 設定
- ログアウト

データテスト 2 (1/3) 6 ステップ	✓
データテスト 2 (2/3) 6 ステップ	✓
データテスト 2 (3/3) 6 ステップ	✓
データテスト (1/3) 16 ステップ	✗
データテスト (2/3) 16 ステップ	✗
データテスト (3/3) 16 ステップ	✗
Untitled scenario 6 9 ステップ	✓
Untitled scenario 5 1 ステップ	✓
Untitled scenario 4 1 ステップ	✓
Untitled scenario 3 18 ステップ	✗
Untitled scenario 2 6 ステップ	✓
Untitled scenario 1 10 ステップ	✗

NoCode Mobile では実行結果をフィルターする機能が現状無いため、失敗したシナリオの把握に時間がかかる



# NoCode Mobile で失敗したシナリオを調べやすくなる拡張機能



15:27  
(連投失礼します🙏)

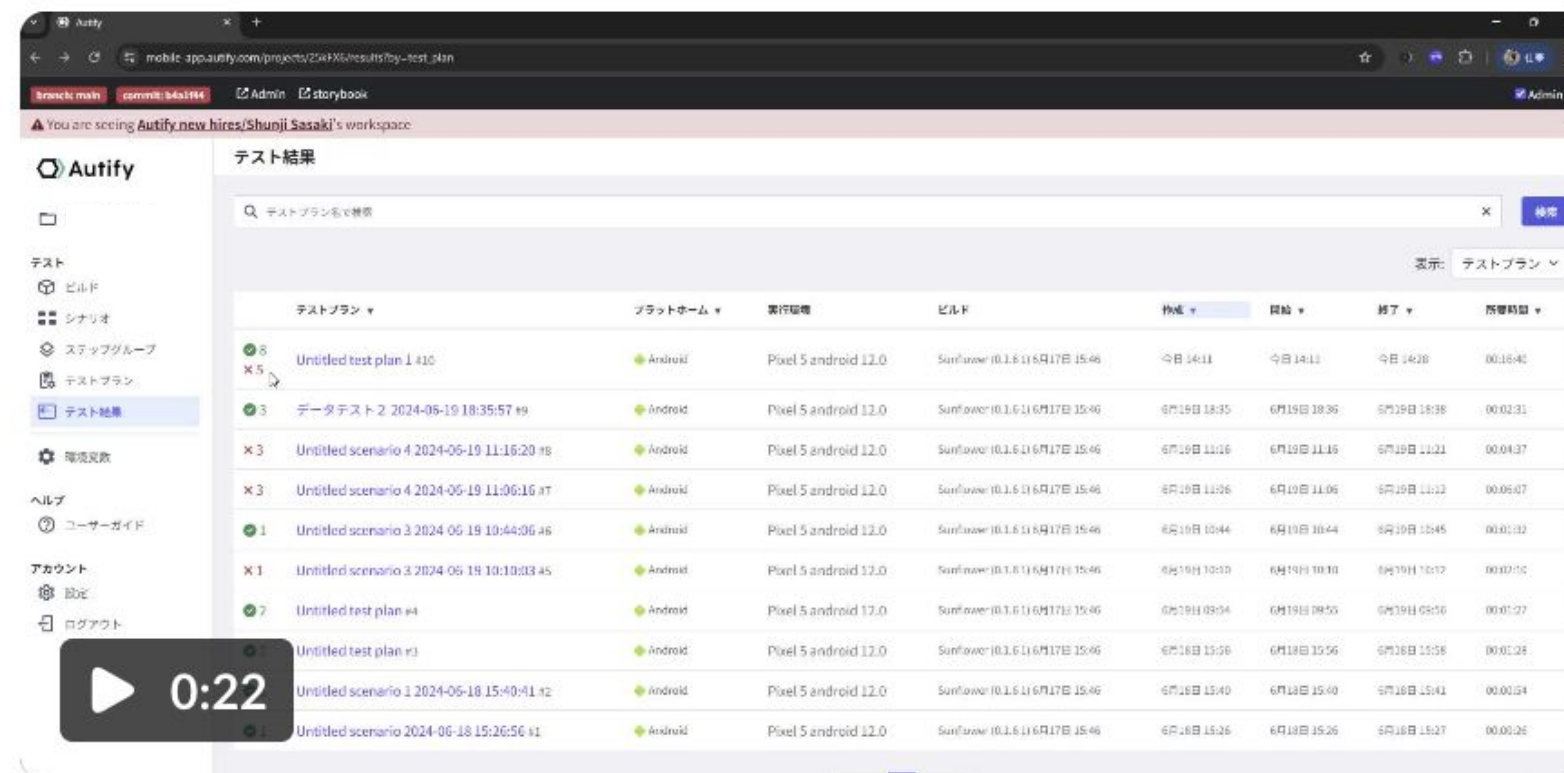
No Code Mobile において、テストプラン結果一覧画面から失敗シナリオのみを抽出できるChrome拡張機能も作成しました！(こちらもChatGPTに聞いて一瞬で出来ました)

Mobile案件であれば、会社問わずご活用いただけますので、ぜひお試しください🐝

使い方については、以下にまとめてあります！

[No Code Mobileにおける失敗シナリオのみを抽出するChrome拡張機能の使い方まとめ](#)

レコーディング 2025-06-25 160942.mp4 ▼



神 10

すて 9

さすが 6

たす 5

かる 1

👍

# NoCode Mobile で失敗したシナリオを調べやすくなる拡張機能

mobile-app.autify.com/projects/25kFX6/results/d3tR7Q

branch: main commit: b4a1f44 Admin storybook Logs

⚠ You are seeing Autify new hi workspace

**Autify**

テスト

- ビルド
- シナリオ
- ステップグループ
- テストプラン
- テスト結果**

環境変数

ヘルプ

- ユーザーガイド

アカウント

- 設定
- ログアウト


データテスト 2 (1/3) 6 ステップ	✓
データテスト 2 (2/3) 6 ステップ	✓
データテスト 2 (3/3) 6 ステップ	
データテスト (1/3) 16 ステップ	
データテスト (2/3) 16 ステップ	
データテスト (3/3) 16 ステップ	
Untitled scenario 6 9 ステップ	✓
Untitled scenario 5 1 ステップ	✓
Untitled scenario 4 1 ステップ	✓
Untitled scenario 3 18 ステップ	✗
Untitled scenario 2 6 ステップ	✓
Untitled scenario 1 10 ステップ	✗

失敗シナリオリンク

タイトル検索...

- データテスト (1/3)16 ステップ
- データテスト (2/3)16 ステップ
- データテスト (3/3)16 ステップ
- Untitled scenario 318 ステップ
- Untitled scenario 110 ステップ

失敗したシナリオのみを抽出できるようになる。  
該当のシナリオにも飛べる。







シナリオ

ステップグループ

### 三 テスト結果

📅 テストプラン

利用状況レポート ▼

ヘルプ

 Autify Help Center

アカウント

 設定 ログアウト

▶ **今すぐ実行 (UTC)** Chrome / Linux

保存

シナリオ

変数

オプション

[ed11ow.io/demo-form-for-test-jp](http://ed11ow.io/demo-form-for-test-jp)

- ページを表示する `http://staging-autify.jp.webflow.io/demo-form-for-test-jp`

勤務先Eメール \*

- test と入力する

プランクは整数

- 動的な値を追加する

Autifyのプロダクト\*

選択してください

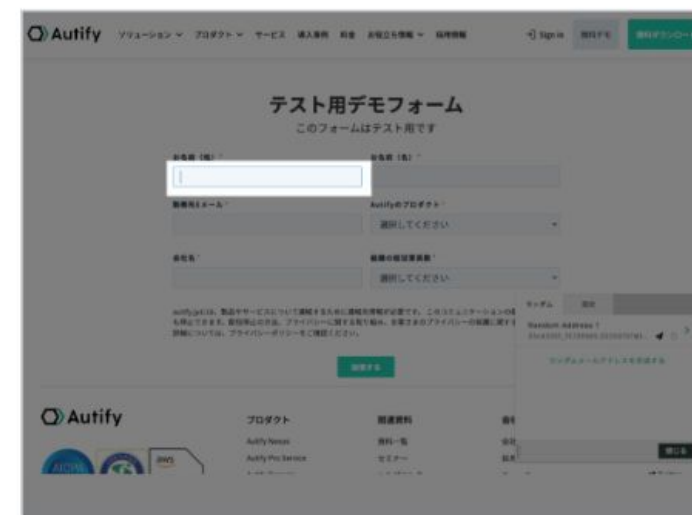
- test と入力する

ステップ名

## アクション

テキストを入力する

×毛



入力値

値を指定 ▼ test

このステップが失敗した時

テストを終了する

口ケ一タ

## ロケータを削除

CSSセレクター▼ CSSセレクターを入力してくだ

ロケータを定義することで、特定の条件にマッチする要素のみを選択させることができます。AIによる要素探索が意図した通りに動作しない際にお使いください。ロケータにマッチする要素がページに含まれない場合、ステップは失敗します。

ロケータの有効な使い方については[ドキュメント](#)をご覧ください。

NoCode Web では任意のセレクトターで  
ロケーターを作成できるが、馴染みのない人  
はどのセレクトターを使えばいいかわからな  
い



# NoCode Web 用のセレクター抽出やロケータを作成してくれる拡張機能



17:45

JSやロケータを簡単に生成できる chrome 拡張です。

<https://www.notion.so/autifyhq/NoCode-Web-Assistant-215ccc10c8ed803d8295c656d4011b8e>

さんへの補足説明：

昨日の話し合いをもとにロケータや JS を簡単に生成する Chrome Extension を作成しました。

上記の Notion から試してみてください～🙏

(僕はほぼコードを書いていませんw) (編集済み)

## NoCode Web Assistant

目的・背景



6月17日 | 投稿したメンバー: Notion



# NoCode Web 用のセレクター抽出やロケーターを作成してくれる拡張機能

← → ↻ staging-autifyjp.webflow.io/demo-form-for-test-jp

Autify

## テスト用デモフォーム

このフォームはテスト用です

お名前（姓）\*

お名前（名）\*

勤務先Eメール\*

Autifyのプロダクト\*

会社名\*

組織の総従業員数\*

autify.jpには、製品やサービスに関する情報はいつでも停止できます。配信停止に関する取り組みの詳細について

対象要素をマウスで押下すると  
NoCode Web で使えるセレクターを  
見やすく抽出してくれる

NoCode Web Assistant

NoCode Web Assistant

Start Selection Mode

System  
Element selected: input#Staff-Name-Sei  
Confidence: high  
CSS Selector:  
#Staff-Name-Sei  
DevTools Console:  
document.querySelector('#Staff-Name-Sei')  
XPath:  
//\*[@id='Staff-Name-Sei']  
DevTools Console:  
document.evaluate('//\*[id=\'Staff-Name-Sei\']', document, null, XPathResult.FIRST\_ORDERED\_NODE\_TYPE, null).singleNodeValue

Ask about the selected element or r Send

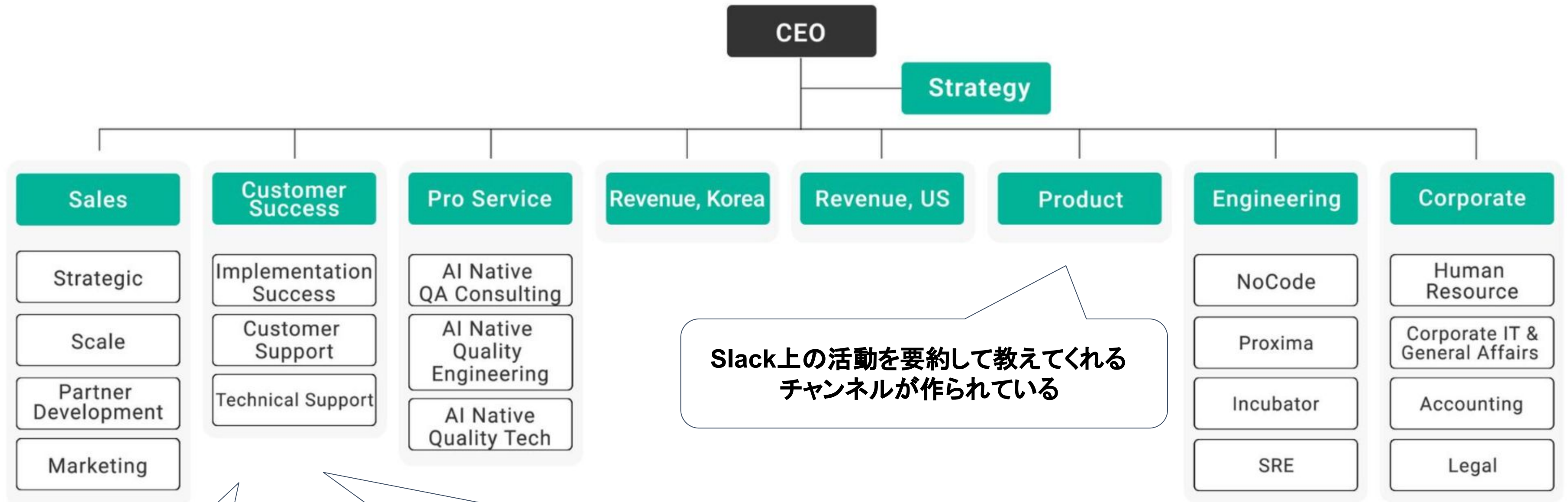
## 余談：拡張機能作りのいいなと思ったところ

- 個人的にニーズのある機能を、開発優先度と関係なく実装することができる
- 価値検証してから開発チームに要望が出せる

他チームの様子もちょっと紹介



# 他チームの様子もちょっと紹介



Slack上の活動を要約して教えてくれる  
チャンネルが作られている

Geminiを使ってヒアリング用の  
アンケートを爆速で作っているらしい

Intercom Fin を活用し顧客への質問回答を  
効率化しているらしい

Devin とお話しているのを見かける

# チーム全体で AI を効果的に使うための取り組み

- お客様や自分達がテスト活動に AI を導入していく際の望ましい行動指針を策定
- AWS Certified AI Practitioner の取得を推奨
- ナレッジ共有のチャンネル設立

- Pro Serviceチームでは、AI の力を活用して、テスト設計を素早く行ったり、テスト活動を支えるツール( Autify のプロダクト)を自分たちのニーズ合わせてより便利に使えるようにしている
- Pro Serviceチームでは AI の活用を個人任せにせず、チームで活用できるようになるための後押しがある

# Thank you!

